

生活科学習指導案

東広島市立河内小学校 萩岡 真澄

- 1 学 年 第2学年
2 単元名 みんなでいっしょに！おもちゃランド
3 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の生活科の内容（6）「自然や物を使った遊び」及び内容（8）「生活や出来事の交流」を基に構成したものである。身の回りの物を利用し、工夫しながらおもちゃをつくったり遊んだりする活動を通して、その不思議さや面白さに気付き、自分のおもちゃの工夫や友達のおもちゃで遊びながら気付いたことを伝え合う活動を通して、身近な人と進んで楽しくかかわることができるようにすることをねらいとしている。内容構成の具体的な視点としては、「力情報と交流」「ケ遊びの工夫」を取り入れている。

低学年の児童にとって、ものづくりの活動は、自分たちで遊びをつくり出す喜びを味わうことのできる魅力的な活動である。児童はおもちゃづくりに没頭することで、自然の不思議さや遊びの面白さについての多くのことに気付くことができるであろう。また、友達とかかわりながら遊ぶことを通してさらに新たな気付きが生み出されることによって、身近な人に伝えたいという児童の意欲を高めることができる。さらに、伝え合う活動を通して生まれたおもちゃをよりよく改良したいという思いや願いを基に、試行錯誤を繰り返したり遊びやルールを工夫したりすることで、みんなで遊びを楽しむことができるようになるだろう。これらの活動を通して、身近な人とかかわることの楽しさを実感し、自分のよさや可能性に気付くことができるようにしたい。

(2) 児童観

児童は1年生の時に、見つけた秋の自然物や校庭の草花や石などを使って、ゲームやごっこ遊びをつくり出し、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができた。遊びを繰り返すことで、「もっとたくさん集めて大きくしたい。」と工夫しながら作品をつくったり、友達の作品の工夫を自分の作品に取り入れ改良したりする楽しさも味わってきている。また、お互いの作品を紹介し合い、それらを使って一緒に遊ぶことで、友達とともに活動する楽しさを味わってきている。

しかし、活動中の気付きを自覚させることや、友達の工夫のよさについての気付きを伝え合う活動場面を十分に設定していなかったこと、振り返りの視点を明確にしていなかったため、自分や友達のよさを認め合うことはあまりできていない。

(3) 指導観

指導に当たっては、次の5点の工夫を行う。

- 単元導入時に、「1年生とおもちゃランドで遊ぶ」というゴールを明確にすることで、「1年生に教えてあげたい。」「楽しいおもちゃにしたい。」という思いや願いをもって、継続した活動ができるようにする。
- 本単元の学習過程に沿って、児童が表現する内容や予想される自分自身への気付きを想定し、言葉かけや環境構成を工夫することで、どの児童からも自分自身への気付きが引き出されるようにする。
- 活動中に発見したことや考えたことなどは、短い言葉や絵、図でイメージマップに表現させる。それを基にした伝え合い交流する活動を学習展開の中に位置付け、自分の気付きを自覚したり、友達の気付きと比較したりすることで、互いのよさを認め合うことができるようにする。
- 活動の終わりには、活動中に活用したイメージマップを見直し、振り返りの視点に沿った3種類のシールの中から自分で選んだシールを貼らせ、短時間で活動の振り返りを行わせる。おもちゃづくりや友達とのかかわりについて振り返ることで、自分や友達のよさ、友達と一緒にいることのよさ、自分の成長に気付くことができるようにする。
- この単元の学習をきっかけに、これからも友達と一緒にいろいろなことに挑戦して頑張っていこうという生活への意欲へとつながるような言葉かけを行う。

4 単元目標

身の回りの物を使って動くおもちゃを工夫してつくる活動を通して、動きの不思議さや遊びの面白さ、自分や友達のよさや自分の成長に気付き、そのことを基に友達や1年生と伝え合い交流する活動を通して、身近な人と楽しく進んでかかわることができるようにする。

5 単元の評価規準

次	生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分について の気付き
単元の 評価規準	身の回りの物を利用して つくったおもちゃやその遊 びに関心をもち、楽しく遊ば うとしたり、工夫やよさなど を友達と伝え合ったりして 楽しく活動しようとしている。	動くおもちゃづくりやお もちゃを使った遊びの工夫 を通して、気付いたことや 友達のよさを素直に表現し たり、分かりやすく伝えたり している。	おもちゃづくりや遊びの面白 さ、自分や友達のおもちゃ の工夫やよさに気付いたり、 互いに交流することの楽しさ に気付いたりしている。
学 習 活 動 (小単 元) にお ける 評 価規準	1 ① 身の回りの物を利用して 動くおもちゃをつくろう としている。		
	2	① 動くおもちゃを工夫し てつくり、気付いたこと を友達に伝えたり、絵や 言葉で表現したりしてい る。	① 身近なものを利用すると 動くおもちゃをつくること ができることに気付いてい る。
		② 友達の工夫点やアドバ イスを参考にしながら、 試行錯誤を繰り返して改 良し、感じたことや気付 いたことを絵や文で表現 している。	② おもちゃを工夫しながら つくる面白さや、自分や友 達の工夫のよさに気付いて いる。
	3 ② おもちゃランドで1年生 や友達とかかわりながら、 みんなで楽しく遊ぼうと している。	③ つくり方や楽しい遊び 方について、1年生が分 かりやすいように伝え方 を工夫している。	③ 遊びをつくり出す面白 さや、友達とかかわって遊ぶ 楽しさに気付いている。
	4		④ 自分のよさやできるよ うになった自分、これか ら友達と一緒に頑張っ ていける自分に気付いて いる。

6 指導と評価の計画（全12時間）

小単元名 (時数)	主な学習活動	評価規準	評価方法
1 おもちゃ づくりの 計画を立てよう (1)	【小単元目標】 身の回りの物を使って動くおもちゃを作って遊ぶことに興味をもち、遊ぼうとする。 ○ つくりたいおもちゃについて のイメージマップを作成し、これ からの活動の見通しをもつ。	関①：身の回りの物を利用して、動く おもちゃをつくろうとしてい る。	行動観察 発言 イメージ マップ

2 ① おもちゃをつくろう (3)	[小単元の目標] 動きへの思いや願いをもって試したり，友達と交流しておもちゃを比べたりしながら，動くおもちゃを工夫してつくろうとする。 ○ つくりたいおもちゃのイメージマップ（設計図）を作成する。 設計図に合った材料を集めておく。（時間外） ○ 試行錯誤を繰り返しながら，自分のおもちゃを作ったり，友達と試しながら気づきを伝え合ったりする。 思①：動くおもちゃを工夫してつくり，気付いたことを友達に伝えたり，絵や言葉で表現したりしている。 気①：身近なものを利用すると動くおもちゃをつくるができることに気付いている。 行動観察 発言 作品 イメージ マップ
2 ② おもちゃを改良しよう (4) …本時 1・2/4	○ おもちゃづくりで困ったことや友達へのアドバイスを伝え合いながら，おもちゃを改良したり，工夫を加えたりする。 ○ 学級のみinnで楽しく遊び，面白い点や工夫していると思った点を伝える。 思②：友達の工夫点やアドバイスを参考にしながら，試行錯誤を繰り返して改良し，感じたことや気付いたことを絵や文で表現している。 気②：おもちゃを工夫しながらつくる面白さや，自分や友達の工夫のよさに気付いている。 行動観察 発言 作品 イメージ マップ
3 おもちゃランドであそぼう (3)	[小単元の目標] おもちゃランドで，1年生や友達と伝え合う活動を通して，友達と遊びをつくり出す面白さや友達と関わって遊ぶ楽しさに気づき，みんなで楽しく遊ぼうとする。 ○ 1年生と楽しく遊ぶようにおもちゃランドの計画をたて，準備をする。 ○ おもちゃランドに1年生を招待し，自分のおもちゃのつくり方や遊び方を伝えながら，遊びと一緒に楽しむ。 思③：つくり方や楽しい遊び方について，1年生が分かりやすいように伝え方を工夫している。 関②：おもちゃランドで1年生や友達とかかわりながら，みんなで楽しく遊ぼうとしている。 気③：遊びをつくりだす面白さや，友達とかかわって遊ぶ楽しさに気付いている。 行動観察 発言 イメージ マップ 振り返り シート
4 また，つくりたいね (1)	[小単元の目標] これまでの活動を振り返り，自分のよさやできるようになった自分に気づき，これからも友達とかかわりながら，楽しく遊ぼうとしている。 ○ これまでのイメージマップや振り返りシートを見ながら，おもちゃづくりやおもちゃランドで遊んだことを振り返り，学級全体で交流する。 気④：自分のよさやできるようになった自分，これからも友達と一緒に頑張っていける自分に気付いている。 発言 振り返り シート

7 本時の学習（2時間）

(1) 本時の目標

おもちゃを作ったり動きを試したり、友達と気付いたことを伝え合う活動を通して、自分の思いや願いに沿ったおもちゃに改良することができる。

(2) 学習の展開

主な学習活動（・児童の反応）	指導上の留意点（○） 配慮を要する児童への支援（◆）	評価規準 (評価方法)
1 前時までの活動を想起し、これまでつくったおもちゃを紹介し合う。 ○ つくったおもちゃをどのように動かしたかを伝え、それに対して気付いたことやアドバイスを交流する。 ・○○をするおもちゃをつくりました。△△すると、◇◇に動きます。 ・●●にしたいけど、うまくいきません。 ・○○さんみたいに、△△にするといいと思います。	○ 自分がつくったおもちゃの説明やつくっていて困ったことなどについて交流させる。説明を聞いた児童は、質問をしたり、困ったことに対するアドバイスをしたりする。 ◆ 説明に困っている児童には、どんなふうに動くのか、どんな動かし方をしたいのかなど、問いかける。 ○ 友達からのアドバイスなどから、もっとこうしたいという思いに沿って改良していくよう言葉かけをする。	
もっと動きが楽しくなるように、おもちゃをかいりましょう。		
2 自分のおもちゃのもっとよりよくしたいところを考える。 ○ これまでにかいたイメージマップを見て、自分のおもちゃのどの部分をどのように改良したいかを考える。 ・もっと速く動くようにしてみたい。 ・もう一つつくってどちらがよく跳ぶか比べてみたい。 ・つくった舟を浮かぶようにしたい。	○ 目的をもった活動ができるよう、やってみたい工夫をイメージマップに書き込ませたり、「こうやったら○○になるだろう」「こうしたいから○○してみる」などと予想させたりさせる。 ◆ 前時の自分のおもちゃの動きを想起し、もっとよくするための工夫を一緒に考える。	
3 自分のおもちゃを改良する。 ○ 改良しながら気付いたことや友達からのアドバイスを基に工夫したことについて、イメージマップに記入する。 ・舟が浮かんでうれしい。 ・タイヤが動いて面白くなった。 ・○○さんみたいに、ゴムの数を増やしたら、高く飛ぶようになった。 ・もっと速く動くようにするには、△△にするといいかな。	○ 友達と相談したり、アドバイスをしたりしながら、活動できるようにする。発見したことは、忘れないうちにイメージマップに簡単にメモしておくといことを伝える。 ◆ 「もっと○○したい」という思いを聞き取り、そうするためにはどうしたらいいかアドバイスしながら一緒に考える。 ◆ 活動のヒントとなるように、動きに対して共通の願いをもっている児童同士（浮かぶ・跳ぶ・進む・回るなど）を交流させたり、他の児童と一緒におもちゃで遊んでみるよう促したりする。	【思②】 友達の工夫点やアドバイスを参考にしながら、試行錯誤を繰り返して改良し、感じたことや気付いたことを絵や文で表現している。(行動観察・発言・イメージマップ・作品)

4 今日の振り返りを行う。

- コメントシールに友達へ伝えたい思いを記述して渡す。

- ・教えてくれたおかげでできたよ。ありがとう。
- ・面白いおもちゃになったね。

- 振り返りシールで自分の活動を振り返る。

- ・「ぼく、わたしってすごい」シール
(できるようになってすごいと思ったとき)
- ・「できた！ばっちり」シール
(頑張ってできたとき)
- ・「友だちのおかげ」シール



5 次時の活動への意欲がもつ。

- 次時は2年生のみんなで、完成したおもちゃを使って一緒に遊ぶことを確認する。

【気づきを引き出し自覚させるための教師の言葉かけ】

- ・前のおもちゃと変わっているけど、どんな風に動きを変えたのかな。
- ・前より面白いおもちゃになったね。
- ・何度もつくり変えて挑戦してすごいね。

【気づきを比較させつなぎ合わせるための教師の言葉かけ】

- ・友達と一緒によく考えてつくったね。
- ・友達にどんなアドバイスをもらったのかな？
- ・友達に上手にアドバイスしてあげられたね。おかげでできていたよ。

- シールで今日の振り返りを短時間で行わせる。

【気づきを引き出し自覚させるための教師の言葉かけ】

- ・自分のおもちゃを改良して自慢したいところはどんなところかな？

【気づきを比較させつなぎ合わせるための教師の言葉かけ】

- ・友達のおもちゃの「いいね！」にもコメントシールを書いて伝えてあげるといいね。

- シールを選んだ理由を、簡単にイメージマップに書かせる。
- 「頑張ってたたくさん考えた」など、自分のよさを認めることができるような理由を書かせたい。

- 次時は、自分たちで遊びながら、遊び方やおもちゃの工夫が分かりやすく伝わったかどうかを確かめ合うことを伝える。